

# “Swing” 創刊

ごあいさつ

柿本雅司 <sup>[K.F.S.]</sup>  
会長



神戸の街がファッション都市を指向して10年目を迎えましたが、1972年神戸市のプログラムの一つにファッション市民大学が創設され、ファッション都市づくりのために必要な人材の育成をめざして講座が開かれました。そのファッション市民大学の第1期生から第5期生までの卒業生が集い、誕生したのが私たちのグループK.F.S.です。

このK.F.S.の目的は「神戸をファッション都市に」という合言葉のもとに神戸のよりすぐれた生活文化の創造をはかり、より豊かな、よりいきいきとしたファッション文化を街のすみずみに浸透させ、そしてファッション産業のよきリーダーとして働き、目覚まし

い活性化をはかるための活動をつづけていこうとするものです。

私たちは神戸ファッション都市百年の計の尖兵としての役割を果たすのがK.F.S.であると自負し、結成以来、地道ではありますが、春秋二回の一般公開講座、毎月例会のマンスリーサロン等、着実な歩みを続けてまいりました。また周知のとおり、福祉のファッションをテーマに掲げ、実践主義を基本にして体の不自由な人たちのためのファッション展示会などを行ない、絶大な評価をいただきました。そして、この度、K.F.S.9年目を契機に、私たちのこの活動をより理解していただくためにも春秋2回、K.F.S.の会誌でもありまた神戸のファッションジャーナリズムの確立とより活力ある神戸ファッションの高揚のためにファッション誌Swingを発行することになりました。

Swing は神戸のファッションカルチャーを一步前進させるための、K.F.S.会員のいきいきとした情報交流の媒体であり、ファッションの各界で活動するK.F.S.メンバーと市民との交流のかけ橋にもしたいと考えております。

ファッション誌Swingは、地域的質感や実感を大切にしながらも国際感覚を基調にし、未来に飛翔するファッション都市神戸のエネルギー源になるものと確信しております。



K.F.S.

シンボルマーク  
誕生

ファッション誌“Swing”の創刊に先だって会員の中でシンボルマークのデザインを募集。応募作品の中3点から理事会で、“K.F.S.”をタツノオトシゴになぞったマークが誕生した。制作者は大内信行・田中謙司副会長のあつせんによるもの。

また“Swing”の名前は、K.F.S.の名付け親、柿本現会長がグッドセンスで命名した。

● Swingのお問合せ・お申込みは  
事務局迄 定価 ¥200.送料¥200

## ● 3月のマンスリー“売る”シリーズ



3月12日(金)午後7時より  
会員無料／一般 1,000円  
センタープラザ西館6F17号室  
“明日から出来る専門店の販促活動” Part II 中田 幸子  
＜ワールドKK社長室マーケティングブランナー＞

昨年の中田幸子さんの講演が好評につきその第2弾で実践編をお願いしようというものですぜひご参加下さい。

## ・ 4月の一般公開講座



4月23日(金)午後6時半／神戸市立勤労会館(中央区役所西隣)  
1人 ¥2,000円  
講師／立池長三(アトリエナクト)  
“82秋冬ファッションの傾向” 毎回立池先生の熱演に好評を重ねるこの公開講座チケットをご購入ください。

びっと・いん



★布引「大しま」二代目

大島裕子さんお披露目

料亭布引「大しま」の大名島裕子さんは、日本風の美人で、神戸の名物女将だが、この二月お嬢さんの裕子さんが神戸女子短大の服装料を卒業し、二代目としてのお披露目を、節分の三日に生田神社でされ、当夜、ごひいきのお客さまにお目見得した。



裕子さんのお披露目

裕子さんは、異人館ガールをつとめたことのある、

日本風な優しい人柄で近代的なファッションもわかる女性。

エキゾチック神戸の街には料亭の二代目女将さんの後継者も少ない時に裕子さんの登場はフレッシュ。ぜ

ひとも日本的な独自のおもてなしで神戸のよきホステスぶりを発揮してほしいものだ。  
中央区熊内通4-8-19 電話271-945

★手づくりの味

フリアンデーズ

中山手店、元町店に続いて諏訪山に和風造りのフーケ庵を昨年開店した西洋菓子処フーケは、味にうるさい神戸っ子にもファンが多い。そのフーケからアーモンド粉末、北海道バター、精製されたグラニュー糖、卵を材料としたフリアンデーズという焼き菓子が発売された。上野庄一郎社長は「神戸名菓として育てあげたい」と味には絶対の自



ほっぺが落ちそうノ

信を見せる。12コ箱入りで1500円。地方発送もしてくれるので、しやれた神戸の味便りに適している。

サロンド・テ・フーケ(中山手店) 電話221-2290 / カフェ・フーケ 電話392-0678 / フーケ庵諏訪山店 電話222-07707

★どれを食べようか?

スパゲティの店リリユガラス張りの明るい店内に入ると、まず驚くのがメニューの豊富さ。ちよっと数えただけでも80種類。しかも、これ以外の組合わせも自由に楽しめ、あなたが



明るいリリュの店

新しい味を創造することもできる。またサラダのドレッシングはすべて自家製で4種類。中身がときどき変わる気まぐれサラダが好評だ。スパゲティの大盛はたったの100円アップですべてが5割増。採算がとれるのかと店長が悩んでいた。値段が安いせいか、若い人たちが多い。喫茶店の感覚で、利用したい店だ。

スパゲティ各種500円800円 気まぐれサラダ500円 ランチ550円 10AM-9PM 第3月曜休 中央区三宮町1-8-11さんづラザB1 電話392-2576

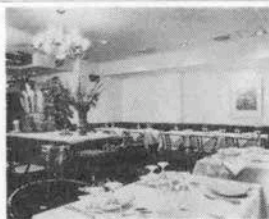
●神戸うまいもん とドリンクینگ

フランス料理

ジャン・ムーラン

中央区北野町31-1 電話242-4188

ヌーベル・キュイジーヌの旗手、北野のジャン・ムーランが、今年で5周年を迎えた。店長の美木剛さんは、リヨンのナンドロンを初めとして、パリのミッシェルセラ、ローアンヌのトロアグロと一流の店ばかりで修業をしてきた名シェフだ。



ジャン・ムーランの店内

季節によって変わるおまかせコースは東京からわざわざ食べに来る客もいる程の逸品だが、6千円からというお安さ。料理らしい料理、凝った料理を食べたい人なら、一度は出かけてみるべきだ。営業時間11:30AM-2PM 5PM-10PM 水曜休 魚のテリーヌ1200円 牛肉のフイリステーキ5500円 ETC



# SPECIAL MESSAGE

## 神戸百店会だより



### ★北野坂ハウスに楽しい

#### 子供の遊び場誕生

春の陽差しを浴びながら緑の芝生で追っかけっこや郵便屋さんごっこをして遊びましょう——昨年オープンしたファミリア北野坂ハウスの広々とした庭を利用



ファミリア北野坂ハウス

用して楽しい企画がすすめられている。ハウスの裏庭に六角形の子供用ゲートを作り、そこからキンダーガーデン（仮称）へ入ると、小さな小屋が二つ、一軒は子供郵便局に、もう一軒はブレイルーム。芝生には木馬を置いたり、のびのびと

小さな子供さん達に遊んでもらおうという趣向だ。発案者の坂野惇子代表専務は「大人のティールームやジョッピングだけでなく、子供さん達が喜ぶことを考えていました。郵便ごっこが覚えられれば幼児教育にもなると思って……」とまだまだ楽しい企画が生まれそう。3月の春休みには完成し、日曜、祭日のみ実施される予定。

□中央区北野町2丁目125

★22213535 月曜休

### ★二つ茶屋、新築オープン

和菓子の老舗、二つ茶屋が3月下旬、元町一番街に新築オープンする。新社屋



1番街に誕生する二つ茶屋の新社屋  
神戸の老舗らしいインテリアで登場

は地下2階地上7階の瀟洒なビルで、1Fは和菓子・喫茶、2Fは座敷席もある大衆的なお食事処。また店先に屋台を出して、おはぎやおこわなどの実演販売もするそう。奥田社長は「当店は『アルカリ性イオン水』を全商品に使用。よりおいしい健康的な食物を楽しんでいただきたい」と意欲を燃やしている。

### ★ルイシヤンタン フレッツ

シュモニター大募集  
「ルイシヤンタン」をさらに着やすく美しくするために、ファッショセン

ス豊かな声を聞かせてもらうモニターを募集している。ご応募の方の中から抽選で全国300名様をモニターに。試着したモニター商品はプ



①ト。応募者全員の中から抽選でパ  
②他各賞が4、810  
③名に当たる。

応募方法官製はがきに④試着してみたいモニター商品の番号(⑧⑨⑩のいずれか1点)⑥服のサイズ(7・9・11のいずれか)⑦住所・氏名・年令・職業・電話番号

### ●ショップトビックス

★ミキモトでは3月30、31日に京都ロイヤルホテルで、4月1、2日に大阪ロイヤルホテルで、3、4、5日は大阪梅田店(新阪急ビル1F)で「彩りの詩人たち」をテーマに春の展示会を開きます。ぜひご覧下さい。

★田崎真珠では恒例の「田崎新作コレクション」を3月9日・12日(A.M.10時)神戸オリエンタルホテル2階大宴会場にて、3月16日・18日(A.M.10時)大阪ロイヤルホテル2階大宴会場にて開催いたします。ぜひお立ち寄り下さい

★中川衣業店では、花嫁衣裳新作展示会を3月21、22日と舞子ビラで、22日神戸オリエンタルホテルで開催いたします。

★神戸オリエンタルホテルの地下1階のグルメシティが3月5日から1周年を迎えます。オリエンタルステキハウス、イタリアンレストランハコモ、中華料理ハコモ、ふぐ、鯛、伊勢海老料理ハコモ、セラーハコモ、ランドVの7店では1周年を記念して、豪華な謝恩メニューを1,500円で用意しております。福引、ベストメニューの抽選などトリプルチャンスがお楽しみいただけます。期間は2月上旬・3月5日まで。

2月25、26、27日はセラバーハコモ・ランドVで2月の集いが開かれます。ボトルキープ1本(ペランタインorスーパーニッカorエンブレム)と海風飯店からの中国風オリジナルがついて、8,000円(税・サ込)お誘い合せの上、お越し下さい。

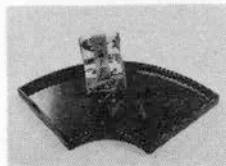
★サノへの恒例の秋冬物キャピタルフェアがターベルサノへで3月11日から4日間開催される。最新のヨーロッパファッション、40点余りを紹介するショーを11、12日(1PMと3・30PM)展示会は13、14日に催される。

New Face



クロワッサン ¥50、カメパン ¥120  
ハムロール ¥100、ヨット ¥100  
¥792-5633 / 営業時間  
AM 10 ~ PM 7 : 30 水曜休

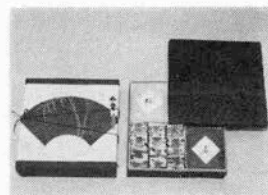
## 新製品コーナー



沙羅双樹

## ●神戸風月堂より和菓子の新製品

洋風化社会の中で「古き良き」ものを見直す風潮が見られるが、このたび風月堂では「日本の菓子は五感の芸術である」といわれる和菓子の新製品を発売しました。代表商品は「沙羅双樹」（栗ようかん・しっとり甘さをおさえた大納言小豆の羊かんに入れたもの）「菊のうたげ」（栗きんとん・厳選された丹波栗の風味を生かしたまるやかな味、白い求肥がはいっている）「花紋」（薯蕷羹・山芋をすりこんだ薯蕷羹に大納言小豆をあしらったもの）。好みにより3種の和菓子を自在に詰め合わせてくれる。6個入（¥1,000）～24個入（¥5,000）



号（近くのキャンベーン参加店の店番号・店名（3018リザ・サロン神戸センタープラザ店）以上明記してお送り下さい。  
宛先／〒100東京中央郵便局留置「ルイシャントン」フレッシュジュニター大募集係  
締切／昭和57年3月20日（当日消印有効）  
発表／昭和57年4月中旬の新聞紙上で発表のうえ、ご当選の方には直接ご通知いたします。

★神戸ダイヤモンドギャラリーで坂本吉章展開く  
12月22日～1月10日まで  
北野坂の神戸ダイヤモンドギャラリーで坂本吉章展が

開かれた。



坂本吉章さん

神戸生まれの坂本さんは兵庫高校卒業後、独学で絵を描き始め、1972年からパリに住み、室内装飾の仕事をしながら絵の勉強に励んできた。パリでは何度

かグループ展に出品しているが、10年ひと区切りというところで今回、日本で初めて個展を開く決心をしたそうだ。  
出品作品は約30点で、パリ及びパリ郊外の建物をモチーフにした油彩ばかり。「この二、三年は建物を続けていってそのうち静物や人物に取り組みたい」とのこと。久々の帰国にギャラリーを訪れる人が後を絶たない様子だった。

## ★オープンフレッシュベ

カリで焼きたての味を須磨パティオ専門店1番

館のカスカード・デリ名谷店が昨年10月に改装オープ

ン。ヨーロッパスタイルのOven Fresh Bakery 1号

店としてパンを焼く釜と発酵させるホイロが売場に設

置された。これで工場との連携プレイががちり結ん

でパンの焼きたて度がグー

ンとアップ。目の前でパン

の焼きあがる様子を見るのも楽しいもの。パンを並べ

るスペースも増えて、150種類が顔を揃えている。

イーディングコーナーではフレッシュな味がその場で

味わえる。

クロワッサン ¥50、カメパン ¥120

ハムロール ¥100、ヨット ¥100

¥792-5633 / 営業時間  
AM 10 ~ PM 7 : 30 水曜休



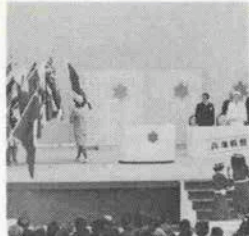
## ポケット ジャーナル



### ★ポートピア'81

その後のトビック2題  
△公式記録映画、完成▽

ポートピア'81の開催を記念して、公式記録映画「神戸ポートピア'81」が完成した。16ミリのカラー映画で、上映時間は60分。内容は、開幕までの準備期間の主な行事、催し、会場の建設風景などが20分間、そして全国各地、世界各国の人



ポートピア'81開会式

々が集った「思い出の180日間」が約40分にまとめられている。フィルムは無料で貸出されており、貸出し期間は3日。自治会や会社の研修会などで利用されており、楽しかった思い出をよ

みがえらす人、行けなかった会場の雰囲気味わう人など、それぞれに好評だ。

●問合せ／神戸ポートアイランド博覧会協会広報部広報課 電話3333-8111 または市役所市民局広報課

### △記念財団、3月に設立▽

ポートピア'81は94億円の黒字を生んだが、神戸ポートアイランド博覧会協会が財団法人「ポートピア'81記念財団」（仮称）を設立することに決めた。記念財団は3月末に設立、国際文化スポーツ、地域文化の発展などの各事業を行なうが、初事業としては、3月20、21の両日、ポートピア'81周年を記念する各種催しを予定している。

### ★三ノ宮駅東地区再開発

第2弾「サンビア」誕生  
三宮の新しい顔として、また今後の神戸の中心地としてあらたな注目と期待がよせられている三ノ宮駅東地区（国鉄三ノ宮駅の東側、

国鉄東海道線の高架と国道2号線、新生田川にはさまれた一帯を総称）の再開発が進められているが、昨年10月にオープンした「サンバル」に続いてCゾーン（雲井通1丁目、旭通1丁目）に3月末「サンビア」がオープンする。



「サンビア」

「サンビア」は地下1階、地上14階のしやれた緑色の屋根付ビルディング。1、2階が店舗、3階以上が住宅となっており将来における周辺の再開発を考慮し周囲のビルとデッキで連絡できるようにになっている。

### ★浜野安宏さんが

毎日デザイン賞を受賞  
「81毎日デザイン賞」を、横浜野商品研究所長の浜野安宏さんが受賞した。

同賞は昭和30年に創設され、一年間にすぐれた作品を制作、発表し、業界に多大の寄与をしたデザイナーやグループ、団体を表彰するものだが、国際的かつ文化的な賞として、その權威

### 誕生日 ありがとう 運動



古切手の収集整理にご協力を  
あなたの会社や家庭で古切手（使用済の日本、外国、どんな切手でも可）が捨てられていませんか。

古切手の周囲五ミリほど残して切りとって、はがさずにそのまま運動事務所までお持ちくださるか郵送してくださいませんか、運動参加カードをお送りします。  
集まった古切手はボランティアの手で整理分類のうえ製品化され、バザーなどの催し物や福祉の店、その他の会合で販売、代金は全額ちえおくれの問題の社会啓発資金として、福祉の向上のために活用されます。

あなたも、あなたのまわりにある古切手にハサミをいれるという行為を通じて、なにげなく捨てられていた古切手に、新しいいのちを与えてください。そしてみなさまの心を集める福祉のこの運動にご参加いただきますよう、お願いいたします。

なお、集まった古切手の整理の奉仕作業は、毎月週一回、第一火曜、第二水曜、第三木曜、第四金曜に三宮の神戸市立青少年会館で行っており、現在百名近くの主婦のボランティアの奉仕をいただいています。この外、家庭にお持ち帰りいただきお宅で整理してください。だれでもできるこの楽しい作業にご参加ください。

誕生日ありがとう運動本部  
〒651 神戸市中央区御幸通八丁目一六 神戸国際会館内  
電話五一八六一 内線316

は高いとされている。

今回の受賞対象は「ボー  
トピア」共同館ファッショ  
ンライブシアター」と「デ  
ザインと生活の提案体・A



浜野安宏さん

XISビル」の企画と総合  
的デザインプロデュース活  
動である。

浜野さんは1941年京  
都生まれ。65年に横浜野  
商品研究所を設立し、商品  
開発、企画、デザインの総  
合プロデュース受託業務を  
開始、今日までエネルギー  
シユに活動を続けている。

### ★酒づくりの歴史を語る

#### 白鶴酒造資料館

1月18日、白鶴酒造本社  
内に白鶴酒造資料館がオー  
プンした。同資料館は正  
初期に建てられた古い酒蔵  
をそのまま利用しており、



迫力ある展示

黒褐色にくすんだ支柱、し  
つとりと落ちついた空気、  
と重厚な雰囲気。そして、  
館内は洗米、蒸米、放冷、  
麹取込み……貯蔵、樽詰と、  
酒づくりの全の行程が、

古い道具類と人形でリアル  
に再現されており、すばら  
しい迫力。白鶴酒造では、  
消えゆく昔の酒蔵や酒造道  
具の姿を保存し、伝統の酒  
づくりの世界を通して、「日  
本のこころ」を伝えたい  
と、本資料館の公開となっ  
たものだ。入場は無料。  
9AM~4:30PM土日祝休  
●問合せ/白鶴酒造総務部庶務課  
078(841)4105

### ★不思議な魅力

江戸のからくり人形展  
去る1月15日から24日、  
三宮セントハウス7Fにお  
いて「江戸のからくり人形



展「が  
くり人  
形開催  
された。  
茶運び

形とは、バネ歯車、ぜんま  
いなどにより人形の反復動  
作を機械によって見せるも  
ので、鑑賞品として作られ  
たのは室町以降のこと。

会場には、鉄棒人形、文字  
書き人形、采振り人形、水  
からくり、茶運び人形、面  
変り人形など、江戸時代の

代表的なからくり人形が数  
多く展示され、実演により  
その巧みな動きを、丁寧な  
解説とともに紹介してい  
た。

また入場者は一部の人形  
に触れることができ、かわ  
いからくり人形の軽妙な  
動きが多勢の入場者に好評  
を博していた。

### ★世帯派の骨董店「温知」

鷹取にオープン  
国鉄鷹取駅より歩いて5  
分の場所にオープンした骨  
董店「温知」が好評を得て  
いる。御主人の祝さんの話  
では、温故知新と音痴をかけ



温知

合せての店名であるとのこ  
と。骨董屋であるよりも、  
むしろリサイクルショップ  
としての要素が強い店内は  
実用品を中心とした生活の  
匂いが充満している。

値打ち物より日常の生活  
に必要な品物を揃えた店の  
ことを骨董の世界では世帯  
派という。この類の店が増  
える事は、かしこい市民が  
増えてきている証であるの  
かも。

### 図書 ガイド



#### ジャパネスク

#### カナデアン歌舞伎と私

海野 光子



海野 光子

青い眼の若者たちが「助六」や  
「勘次郎」に挑む。神戸名物カナ  
デアン歌舞伎の生みの親、海野光  
子さんが前者「先生歌舞伎が演り  
たい」に続いて書き下した感動の  
記録。言葉や文化の違い、公演に  
まつわる財政上の困難などを乗り  
こえて前進する彼らに第9回ブル  
イメル賞(舞台芸術部門)など  
多くの支持が贈られている。  
(1500円・大和山出版社)

#### 日の怪

友岡 子郷



松蔭女子学院で教鞭をとる友岡  
子郷さんの第二句集。「遠方」以  
後の昭和44年から53年前半の作品  
から319句を自選している。  
われら共働きなれば

露草など朝は赤子の運び役  
この10年近い時期、「人並みに  
人生上の起伏」があり「気ぜわし  
く過ごしてきた」という子郷さん  
が、自然破壊や政治的腐敗の激  
する中で希ってできたのは「純粋の  
詩心の回復」であるという。  
(2500円・南村書局)



## ★平松治子第2句集

「海図」出版記念会開く

現代俳句「青玄」(伊丹三樹彦主宰)の同人で女流俳人の平松治子さんが、「パ



平松さんを囲んで

スポーツ」に続いて第二句集「海図」を東京青玄三光会出版部から刊行し、その出版記念会が、芦屋市民会館で1月17日に開かれた。

「かりめがね 母のは母がよく見える」 治子

俳句現代派の進む先端を渡ろうとする心意気がうか

## 花 時 計



福原遷都のこと

最近、ある会台で雑談をしているとき、「都」という話になった。

まずは平城京、奈良に都があった。難波にも都が遷ったことがある。いまの大阪である。天智天皇が大和の飛鳥から大津京に遷都したこともある。これは現在の滋賀県とい

がえる「海図」の出版に、

高橋徹、東内三男、小池義人、重森守などに、伊丹三樹彦、公子ら、同人たち約一〇〇人が集い、心からの拍手を贈った。

★ダイエーがジーンズ発売を記念してデイスコ大会 K O B E 21 C デイスコルームにおいて、2月1日、ダイエー主催のデイスコ大会が開かれた。これは同社がニューヨークの「10」ジーンズを新発売する記念として催したもの。当日は一般募集された18歳以上の若者たち150名が集まり、「10」ジーンズのイメージキャラクターであるニューヨーク

・ヤンキースの名捕手(背番号10)リック・セローン

選手がゲストとして登場。リック選手の活躍場面がビデオで紹介され、若者たちも大いにフィーバー。ダイエーの中内功社長、セローン選手、「10」ジーンズのケニスバーク社長たちの



リック・セローン

審査で、ミスター&ミス「10」ジーンズなど、あわせて7つの賞が若者たちに贈られた。

うことになる。

それから平安京の時代が続く、これは京都である。後醍醐天皇が神器を奉じて、大和の吉野に入り南朝を開いたこともある。これも奈良になる。

ところが、兵庫に遷都されたこともある。

平清盛が、一一八〇年安徳天皇を奉じて、一時福原京を開いたことがある、というような話である。平清盛が兵庫の福原に都を遷す目的は何んであったのかという点については、概ね、対宋貿易

の拡大を計るためだという説が強い、事実この一一八〇年2月に大和田の泊を修築しているのである。しかし、清盛の志は成らず翌年、一一八一年にこの世を去っている。

清盛の作業は短期間であった。が、その大和田の泊は後に兵庫の泊として繁栄し、明治の兵庫開港に繋がるのだが、この平清盛の投じた一石が、現在の神戸の港の基になっている。つまり、都や港をもたらししたのは清盛その人である。

△Y△

## K O B E P O S T

★貫川延若文の後援会「井筒会」

が今年は2月12日に生田神社会館で開かれます。十三夜会から「顔見世」の招津の平作に貫と、年間大賞が贈られ、土方歌舞伎の伝承に心を配る延若文は大活躍です。

★女流書家望月美佐さんの後援会美佐の会が、2月6日生田神社会館で、節分と新春お祝の会を開きあてやかに望月太夫を中心に神戸らしい国際色豊かな花魁道中をご披露しました。

★現代美術の奥田善巳さんが、3月22日17日まで、東京の村松画廊でタブローの個展を開かれます。銀座7-10-8平方ビル2F 電話909095

★彫刻家の新谷環紀さんがアトリエを、兵庫の御原天神の近所に移転されました。新谷彫刻研究室〒652神戸市兵庫区南逆瀬川1番13号 電話(780)65111514

★河野商店の河野龍子さんが、多年の功績により、紺綬褒章を受賞され、その祝賀会が2月14日生田神社会館で開かれました。

★若手バレリーナの登壇門ロザンヌ賞を、貞松・浜田バレエ団の貞松正一郎さん(18)が受賞。ロザンヌ賞は、7500スイスフランの他、1年間希望する欧米のパレエ学校に留学生として派遣されます。ご両親は貞松隆・蓉子さん。

★4月14日19日メトロギヤラリーで五枝会展(新書人会の女流作家/小畑延子、魚田翠舟、杉本翠理、三宅青舟、李鳴九)が開かれます。

★元朝日新聞記者、また大阪朝日会館の館長として活躍し、最近にはユニークな抽象画の作家として神戸の人々に愛された十河巖さんが、1月12日他界されました。心よりご冥福をお祈り致します。

★神戸の長唄界で女流三弦方として活躍された岡安喜昭師が亡くなりました。1月28日花隈福寿で葬儀が行われました。

# 13th CHISATO'S ANNIVERSARY



KOBEの海がブルーに光り  
白い街が風に唄う 3月  
千里の13年目の春が訪れました。  
人と店とお酒との出会いを。  
自由に楽しい雰囲気です……。

阪 本 千 里

STAND  
CHISATO  
**千 里**

神戸市中央区下山手通2丁目11ノ1 KSMビル1F

TEL. (078) 331-4730

5:00PM~0:00AM 日曜・祭日休

## 格調ある 社交ダンス

社交ダンスは楽しみながら運動になり、一度覚えてしまうとダンスパーティでは“踊れる”という安心感で気持ちにゆとりを持って参加頂けます。さあ、あなたも様々なパーティに世界共通の社交ダンスでお楽しみ下さい。



- 全日本プロダンス競技大会において常時、決勝戦進出
- 西部日本7年連続チャンピオン  
長谷川ダンススタジオ 長谷川 祐司

- 男女、年配者歓迎〈特に男性、初心者の方お気軽にお越し下さい〉
- 初心者にはブルース・シルバ・マンボ等、やさしい踊りから始めます。
- 経営・指導 長谷川 祐司
- 教 師 島田吉郎・千古芳栄・竹久純子
- 営業時間 午後1時~午後10時(日曜休)
- レッスン料(会員制) 30分 2,000円  
〔入会金 2,000円〕 見学無料

## 長谷川ダンススタジオ

元町駅南2分(栄町2丁目)

☎392-0022

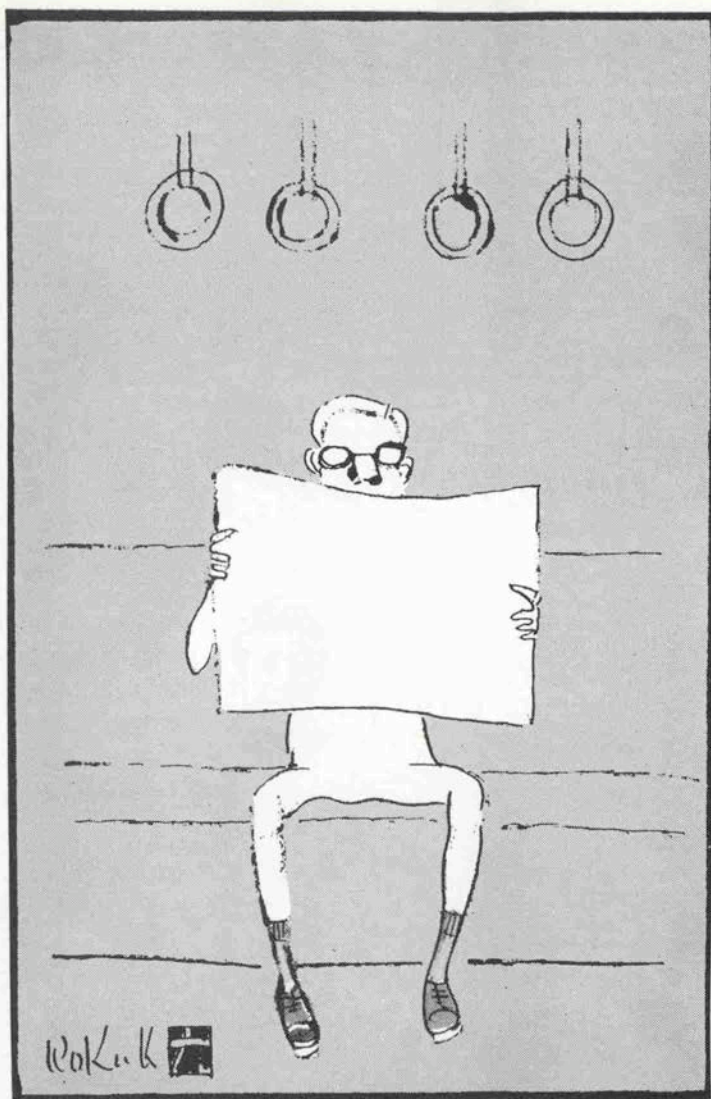


第6回神戸女流文学賞佳作 〆第3回〆

# 海の枢

菊池 佐紀

え・貝原 六一



素っ裸に引きまわっているくせに男は気が付かないでいる。平気で、眉も動かないで、たいがい新聞かなにか読み耽っているものだ。身ぐるみ剥ぎ取るのも悪いから

靴下と靴だけはまあ、履かせておく。ギツコンと電車が降り、佐知子に裸にされた男たちが、開いた扉から裸の肩をぶっつけ合いながら降りて行く。靴下と、ぴかぴか

に磨き上げた靴だけ履いた男たちが威張った顔をして、改札口へ向って尻を振って行く。

目の前の座席に座っている男たちにそんないたずらをしてみたい欲望は佐知子にはもう起ってこなかった。新聞から顔を上げた縞の背広の男の目とひよい、とかち合つて、佐知子はあわてて目を伏せた。今の病み上りの自分を男に凝視められたくなかつた。

女たちが盛んにおしやべりを合っている。男のようにジーンズの股を半開きにした若い女と、褐色のブーツを深ぶかと履いた女が他愛ない話に打ち興じている。着物の衿をきちんと掻き合せた奥さま風の中年の女が二人、上品に合樋を打ち合っていた。時どき気取った笑い声が洩れる。この人たちには子宮があるから、と佐知子は思った。ああして楽しそうに喋り合っているんだわ。女は頭で考えることなどしないで、年中しきゅうで考えているから平気でつばを飛ばしてられるのだ。しきゅうのないあたしが要との性生活で困らないようにと、お情けで残してくれた蜥蜴の尻尾ほどの子宮で何を考えつくと言ふのだろうか。しきゅうの代りに太腿でも考えろ、とあの猪首の医者はいたいのだろうか。しきゅうが堅牢にでき上った女ほど自信ありげな表情でいられるに違いない。あたしの腹の中が空っぽだと知ったら、目の前の男たちはあからさまな失望のまなざしを投げてくるだろう。女たちは一斉に憐憫の尖った視線を腹に突き立てて寄越すだろうと佐知子は思った。別にたいした変りはないよ、と慰めてくれる男が居たら、その男などに、臓もつを抜き取られた女の哀しみが判るわけはないのだった。さっきの冬太郎に似た裸木が目の裏に浮かんでくる。樹木はベニスがないからあんなに神ごうしく裸で大地に突っ立って居られるのだ。子宮の欠けた女はどうしてこんなに見すばらしく思えるのだろう。目立って美しい顔立ちをした若い女が車内にいた。長い漆黒の髪が肩先でうねって乳の上まで降りかかっている。ショートカットにした栗色の髪が多い中で、海の藻

を思わせる素直な髪はひときわ目立った。女もそれを充分わきまえているのだろう。額に振りかかった髪を左の指で絶えず誇らしげに掻き上げている。指がしなやかにくねって、なまめかしい色気が足下までこぼれ落ちている。佐知子の目の前が突然、かき曇って、ネガの中の写真のように色を失った。

「それ、つら当てなのか、俺への」

冬太郎がねちちりと言った。聞かないでも判っているはずなのにこの男はどうして無駄な確め方をするのかしら、と佐知子は喉の奥で呟くが声には出さない。肩まであった長い髪を今朝切ってしまった。佐知子をモデルに使用して鷹のようにつきつめた目をして取り組んでいる三十号のタプロオももう完成できなくなる。油絵は素描を終えたばかりだった。冬太郎は長い髪を好んで絵に描いた。髪を切ったことで冬太郎の今までのはりつめた時間がすべて徒労に終るのだ。そう思うと佐知子はうつむいて引き結んでいた唇が少しゆるんできて、急に、笑いたくなった。

「笑っているのか、佐知子、おまえ、え？」

夜が明けて突然、自分でも日ごろ得意に思っているはずの長い髪を切ってしまいたくなったのだった。顔を知られていない美容院まで行って剪ってしまった。うんと短いのがいいと思った。店の壁にはり付けてあるヘアスタイルの写真の中から、目立ってショートな外国のブルーネットの女を指さして佐知子は店主に言った。

「こんなのにして下さい」

ぐつと唾を呑みこんで、思いきってそう言った。

「お嬢さま、惜しいですなあ、綺麗な髪」

赤いマニキュアの中年の店主が満更お世辞でもなさそうにそう言ふと、佐知子の髪にブラッシを当てて一気にときつけながら、

「ほんとに切っちゃっていいんですか？」

「いいんです」



そうですわねえ、と世慣れた女主人は、客の気が変りそうもないのを知ると、今度は機嫌を損ねないように合槌を打ち始めた。

「長いおぐしはお手入れが大変ですものねえ。まだ学生さんでしょう？ ショウトカットが近ごろは流行ってきましてネ、お顔うつりがいいと思いますよ」

冬太郎は黙りこくっている佐知子の顔を大きな掌で鷲掴みにすると、おまえの顔はな、と言った。いいか、おまえの顔はな。長い髪だからちつとは見られる顔だったんだ。きつねみたいな尖った顔になって。と憎々しげに言った。そのまま指の一本一本に力を籠めてくるので、佐知子の顔はいやでも上向きになる。冬太郎の瞋り猛った目とぶつからないように佐知子は目を宙へ釣り上げた。

「そんなイヤな目付で俺を見るな、モデルになるのがいやならそう言えばいいのに、いやがらせの積りか、それ」のぶとおまえはな、と冬太郎は続けた。よく似ているんだ、いやがらせをするところがな。それもしつこいのだ。親娘だからな、そっくりだ。それに、と冬太郎はなにか言いかけておいて、それが余程深く佐知子を傷つけるたちのものだと思付いたのだろう、流石にあとは言葉に出さなかった。

ゆうべ、このひとはあたしを抱こうとして、のぶと言った。終ったあとでまた、のぶと言ったわ。佐知子は冬太郎の体の重みを思い出していた。母親ののぶも六年のあいだ、一極も切ったことのない自慢の長い髪をしていた。のぶの髪にも冬太郎の体から滲み出た脂と手垢がしみついてべったりと汚れていた。親娘が同じ男の汚辱の榮光にまみれて光った長い髪を剪ってしまったくなったのだ。冬太郎と六年の間、夫婦として暮したのぶが憎いと思った。のぶが生きていたら真正面からあの富士額のくつきりした白い顔に赤いみみず腫れを這わせてやったかもしれない。それよりも自分の方が先にのぶに殺されたかもしれないのだった。

首筋に冬太郎の絵具の沁みついた指の先が食い込んで

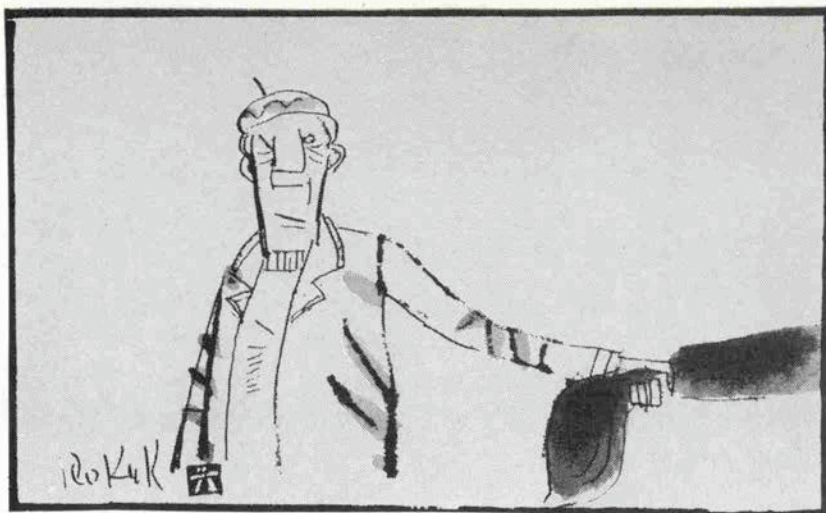
きて絞め上げられた。息ができないので片っ方の手で冬太郎の腕を掴んで思いきり爪を立てた。背骨が弓なりに反って軋った。佐知子のカットしたばかりの頭の地肌へ指を突っこむと、冬太郎はアトリエの紅い絨緞の上に押しつけた。毛足の長い絨緞の肌はモデルの汚れた足の裏の匂いがした。くそっ。剪った髪はどこへやったんだ、え。冬太郎は喚いた。怒ると見境いの無くなる男だったこの短い髪にかわではりつけたって、カンバスの前に立たせてやるぞ。制作中の絵を中断しなければならぬ口惜しさから、けものように吠え立てた。

未完成の人物像がナイフでズタズタに刻まれてゆく。自分の素描の顔にぽっかりと穴があき亀裂が走ると、佐知子の心の中を惨忍な欲びが突っ走った。食うか食われるかの男と女の闘いがこれから始まってゆく予感が重苦しくのしかかってくる。佐知子は、自分がどうしようもなく冬太郎を愛しているのを悟った。

体が急にくん、と揺れ、上体が傾いたと思うと電車がストップした。長い美しい髪をした若い女が立ち上り、佐知子の前を大腿で扉の方へ歩いて行く。女が陽の中へ出ると忽ち光を吸収した海の藻が金色に揺らめいて肩先で燃え上る。女が遠ざかると、風を孕んだ長い髪も佐知子の視野からすうっと消え去っていった。

アトリエの中央に素裸のモデルを立たせて冬太郎は絵にする女の体を値踏みしていることがあった。冬太郎の注文通りにモデルは腰に手を当てがったり両腕を宙にくねらせたりしながら白いライトの下に姿態を晒した。顔が美しくあどけないくせに裸にしてみると鮫肌で黯ずんでいた。乳房が少しでも垂れていたりすると、冬太郎は露骨に顔をしかめて見せて、モデルをすぐ壇上から追い立てた。不服そうに頬をふくらませた女がハイヒールの踵の音をやけに立てて石畳を歩いて行き、門の植込みの脇の南天の実に唾など吐いて立ち去る姿を、母親のの

ぶが小学生の佐知子連れ子して冬太郎の許へ嫁いで来た時から佐知子はもう見飽きるほど見ている。金ばなれの良い冬太郎が他の画家たちよりも並はずれて高いギャラを支払うので、志願してくるモデルは多かったが、素裸を男の前に臆面もなく晒す女たちの中に冬太郎が期待するほどの清潔な体の線を持った相手など滅多に見付かりそうもなかった。執拗こくモデル選びを繰り返した末に、やっとのことで制作意欲をかき立ててくれそうな女



にぶつかった時などは気難かしい冬太郎の相好が崩れるのと一緒に、のぶのいつもしかめた眉根が開くのが判った。

仕事が思うようにはかどらず、画筆が思うさま揮えない時など冬太郎は焦れて、のぶに八つ当りした。

のぶの髪の毛の根元を引っ掴んだ冬太郎が八畳の間を曳きずり廻している時があった。どうされても無抵抗なのぶは声も立てなかった。修羅場が初まると小学生の佐知子はそっと隣室へ逃げて、元は女中部屋だったらしい湿った匂いが鼻につく古い小簾簾の横で、海の底にいる貝のようにひっそり、息をひそませていた。そのうち冬太郎の罵声が止んで、耳の底が、しん、となってくる。息をとめて神経を隣室に集中していると、男の裸の肉とのぶの裸身がぶつかり軋り合う熱気が横越しに佐知子の肌に伝わってくる。黒い小簾簾のちぎれかけた取り手の金具もぎしぎし音を立てる。そっと襖から離れて足音を忍ばせて庭石伝いに裏庭の植込みの蔭へ逃げた。山茶花やくちなしの小じんまりした庭樹の蔭で、ちまちまと咲いた白い花弁を精いっぱい怒りをこめてむしり取っていた。手荒く邪慳にむしり取るほど心は風いだ。ちぎった白い花の堆積でスカートの前が充たされると、佐知子はやっと落着いた。ある一定の間を置いたあと居間へ帰ってくると、その時はもう冬太郎の姿はアトリエに消えていて、来客でもあるらしい男たちの哄笑が聞こえたりしている。根締めめ解けた長い髪を元通りなまめいた櫛巻きに結び上げて、つげの櫛もきちんとさして、身繕いを済ませたのぶが何くわぬ顔のまま台所で茶を入れる仕度などしているのだった。

のぶの長い髪の毛は、冬太郎にいたぶられるために押しているとした佐知子には思えない。のぶは髪を剪るという抵抗もなかった。艶やかに光る髪は男の暴力を求めてなまめかしく喘いでいる。一緒に湯に浸った時にいやでも目に入るのぶの脇の鬚りや黒くろした陰毛とそれは性的に繋っていた。佐知子のはのぶの涼しげな顔付を憎



んだ。

ごく気紛れではあったが、酒気を帯びて夜遅く帰って来た時など、冬太郎はのぶの連れ子の佐知子をちやほやする時があった。尤もらしく土産などを佐知子に手渡し、自分の膝の上へ抱え上げて背後から大きな手を廻してきて揺さぶったりする。酒の匂う口を佐知子の頬にくっつけて、産毛の見える薄い皮膚を音を立てて吸ったりした。のぶは見えて見ない振りをしていたが寝床を別にしてゐる冬太郎が寝室へ引き揚げてしまうと、母親の顔付が妙に醜くくなっているのが佐知子には判った。ぎすぎすした目で他人の子を見るように佐知子を見た。のぶは何も言わないが、母親が今、しんねりと何を思っているのか佐知子は敏感に伝わってくる。義父をなるべく避けるように佐知子は子供ながら智慧を働かせた。そうすると、のぶの表情が和らいで、突っけんどんな扱いをされることから免れるのである。

真夏のむし暑いころなど、モデルが素裸のまま廊下へ出て来て、たばこをすばすば吸ってくつろいでいることがあった。高校生になっていた佐知子と廁の入口で顔を合せても平然としていた。たつた今、小用を済ませて出て来たばかりの女の肉体から佐知子は目をそむけたが、女はひるまなかつた。くわえ煙草のまま、手打ちかけの骨をすっぱり覆った髪をゆらゆらさせて、アトリエへ消えて行った。庭木の繁った葉叢の蒼い翳りに包まれて白い裸身が妙に青樾めて見える。上体の割に細い小さな足をした女だった。モデルはそのうち、大っぴらに冬太郎の寝所に泊り込むようになったが、のぶは何も言わなかった。のぶが娘の寝息を窺いながら寝床を脱け出して行くこともなくなった。ただ、のぶは、冬太郎と佐知子の間に立ちただかるのだけは忘れていない。佐知子はいつものぶの鋭い目を意識していたし、のぶを差し置いて冬太郎に近づくのは話一つ交すにも憚りがあった。のぶが大出血して病院へ運ばれて行ったのは季節はずれの砂混りの荒い風が吹く三月だった、のぶの悲鳴で

佐知子がかけて寄ってみると、畳に一カ所、ポタツと赤い肉塊らしいものが落ちていて、血が点々と廊下を伝って続いていた。廁と廊下の仕切りのドアにもたれかかった恰好でのぶは蹲り、もう半ば気を失いかけていた。綺麗好きも度を過ぎた癪性ののぶが毎日時間をかけて乾いた布で丹念に磨き上げた廊下の木肌は、材質が選び抜いた贅沢なものだっただけに、いつも底にぬめった光沢をひそめて白く乾いていた。それだけに、血痕が異様に目立った。のぶを入院させて、容態が落着いたのを見計って帰って来た佐知子が、湯を含ませた布切れで血の痕を拭き取ろうとしても、時間が経ったあと凝固した黯い血痕は執拗に取れなかった。こすっても消えない血のあとのはのぶの依古地な暗い性格をそのまま示していると佐知子は思った。

庭の隅に寒椿の花弁が落ちて、うず高い堆積ができてゐる。薄ら陽の当たった夕暮の庭に目をやってそれに気付くと、のぶの体から流れ出た血のかたまりを連想して佐知子は一瞬、ひるんだ。落ちた椿の花弁があんなに嵩ばるまで放っておくことなど、働きの者ののぶにはついぞなかったことだったのに、そう言えばこのごろ、体を動かすのを妙に億劫がっていたのぶの、からんころんとやけに引きずった重い下駄の音に思い当った。入院後の経過が思わしくゆかず、のぶは、あっけなく、死んでしまった。

髪長い女と入れ更りに、妊った若い女が車内に乗り込んで来た。小さな男の子の手を曳いている。生み月が近いのだろうか、女の腹はもうかなりせり出していて、座席に坐るなり、口を少しあけた懶るい表情になった。頬の赤いその男の子はクッションに上るなり躍んだりはねたりし始めた。お靴はいて上っちゃだめ。男の子の両足から短靴をもぎ取ると、ママはだるいんだから、じっとしてなさい。母親が薄くなった眉根を寄せて叱っている。

(つづく)

# '82 サングラス



Christian Dior

YVES SAINT LAURENT

NINA RICCI

**LANCEL**

Elégance

BALENCIAGA

Polo

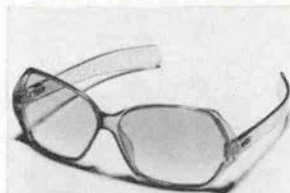
LANVIN

Ray-Ban

**PLAYBOY**

emanuel ungaro

courmèges



Christian Dior

各ブランドに82年の幕開けを告げる期待のニューモデルが登場。ダンヒル、ディオール、ランセル、それぞれのニュースターを豊富に取り揃えています。

## 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表  
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

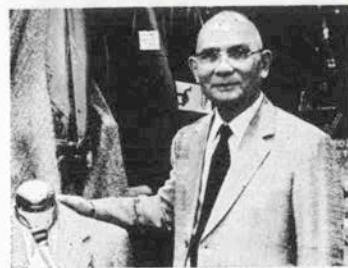
### 補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

ハイセンスな紳士服で  
最高のおしゃれを



## 三惠洋服店

神戸・元町4丁目 ☎(078)341-7290



# ガチャマン

南禅満作

え・小西保文

翌晩も多加はやって来た。

多加は扉を開けて帳場の入口に立ちどまると、にやつと笑ってから、釣鐘が口をきくのを待つ。機嫌を確めて、よければはいる。悪ければもつと待つ。

「何じやいな。又邪魔しに来たのかいな」

来るのが足繁くなると、釣鐘も言うようになっていた。

多加は長椅子に腰かけると、横目で睨みつけて、

「こちら、向きな」と、先ずやり返す。「社長はんは仕事したらええ。うちは黙っとる」

十一時近くまで話しこむのが通常になった。

日が重なると、長尻になる。十二時を過ぎることもあった。

「一時だぞ」

と注意すると、掛時計を見上げ、さよならも言わずに、木のサンダルをばたばた残して帰る。

多加がくれば、相手をしなければならぬ。そろばんに身がいらないし、帳付けははかどらない。あるとき業を煮やして、



「わしの身にもなってくれ」

といったことがある。追い出しなと多加はその時言った。それですむのだった。その時は釣鐘は勢いの赴くまま、椅子を立上っていた。返事次第ではつまみ出す氣勢をみせた。甘く見られないためにも、一度はそういう処を見せて置きたかったのだった。

「これを今夜すまさにや、わしは寝れんので」

「追い出しな」と、もう一度言った。

「製品納付の最終日なんや。知ってるやろな相良さん。」

これこれ納めましたと計算しとかにや、政府から糸貫えんのやで」

多加は陰気臭く釣鐘を見つめ、子供が駄駄をこねるように長椅子で尻を振った。

「追い出しな」

泣声になっていた。釣鐘は、毎晩こんなことを繰返している二人のことを、屋根続きの部屋に寝ている甥や町会議員はどう見ているだろうかと気になった。多加がくれば、何の変哲もない古工場が一変する。多加のいるとないで、帳場の明るさが違う。来るなどといっても、口先のことであるのは彼自身が一番よくわかまえている。

そのことに気付くと折角小言を述べながら、中途で笑い出していた。多加も笑った。照れている笑い方だった。

二人とも笑い出していた。すると多加は一層それが照臭かったのだろうか。いきなり座ったまま、ぺたんと横に寝て、片頬を長椅子のシートにくっつけた。

「追い出しな」を寝たまま繰返した。

釣鐘は血の騒ぐのを身体で知った。多加は寝て顔を火照らせながら彼を見ている。子供っぽい仕草だが、男を受入れる姿勢に似ている。襲ったとしても、多加は抵抗しないだろう。多加は目をつむっている。

「相良さん」

と彼は、彼女の身体の上から呼びかけていた。多加はうす目を開けた。

「さわりな」

拒否の言葉にしては激しいものではない。

「手はかけん」

釣鐘はいった。言って置かねばならぬと思ったのだった。多加にはではない。自分にある。

「知ってるのやろな。あんたは後家はんやで。後家が夜な夜な男の帳場へくるのはどういうことなんや」

「いやらしい」

「欲求不満か」と多加をのぞきこんだ。

すると多加はくくと身もだえしてから、いきなり彼が背を向けるのを待って、

「そや、欲求不満や」といい返した。

「言ったな」

くくと又笑った。釣鐘は引返して多加の肩に手をかけていた。その手を払いのけて多加が言った。

「さわりな」

釣鐘は机に戻って無然とした。こんなことをしてどうなるのだろうか。多加は使用人である。手を出せば傷付くのは雇主である。こんな割のわるい火遊びはない。これを仮りに恋愛ごっこと考えてみる。妻があるのを多加は知っているはずである。妻に知れたらどういうことになるか。多加は分っているのだろうか。

ようやく書きものを終えて振り返ると、多加は椅子で震えていた。

「寒いのか」

ときいた。多加は身を縮めている。

「寝たから、風邪ひいたのちがうか」

多加はストーブの蓋をあけ、鉄の火掻棒で火種子をかき廻した。ばちばちと煙突に上る炎の音がした。薪がストーブの中で音立てて転がった。

「用心せにや」

多加はくすんと鼻を鳴らした。

「わしの作業衣があるから、着とらんかい」

多加はされるがままに胸をすぼめて釣鐘の上着の中で震えている。



「相良さんは亡くなった、だんなのことを思い出すことがあるのんか」

と釣鐘は話しかけていた。しんみりした話が二人の間で出ることもあったのだった。そんな時は、二人がはしやぎ過ぎた後でのことである。多加はにこりもしないで頷いていた。

「わしに話してみる気あれへんか」

「うちと一緒に外を歩いたことがあったん」

と多加は素直に話した。それからにやっと不逞な独り笑いをした。

「いい気なもんや。思い出し笑いと違うか」

「そのときうちが相棒怒らせてしもうたん」と彼女はためらわずに続けた。「もうお前と一緒に歩いたらん言うん。うちが下駄はいて、相棒はうちの乳のところまでしかなかったん」

「相良さんの彼氏は背が低かったんか」

「もうお前と一緒に歩いたらんと言うたのが、ほんまになつてもうたん。そやかて、うちら三月も一緒に暮らしてないから、夫婦の情愛なんか、知らなかったみたい」

「夫婦のすることとしてもか」

「そんなんじゃないんよ。女が男に、男が女に情が移るつてのは」

「それが残念か」

「三月経ってから、戦争に取られて行つてもうたん」それから多加は、釣鐘が帰れというたび、べたんと長椅子に上半身を横たえるようになった。寝れば、抱え出さぬ限り追出せない。多加はそれを知っているのだから。釣鐘の方でも、ほり出す気はない。多加がくると帳場が華やぐ。妻と離れて、長くなるからか。多加の来ない夜は待切れず、道を通る足音に聞き耳を立てていた。

多加はそんな釣鐘を、見抜いているようでもあった。夜中を過ぎて二人切りでいても恥らう気配を見せなくなつた。

多加の身の上話を余り聞かされ過ぎたせいか、一日一

日と、親身なものを覚えるようになった。亡くなった多加の父が色盲であったことや、遺伝の法則で女の多加にはそれが出ないが、彼女の生む子供が若し男なら、四人に一人が色盲の可能性のあることも知った。

女体の血の奥深いところに巣くつたそういう秘密は、本来なら男に他言できないものである。秘密を知らされたことで、秘密に加担したような奇妙な想念になる。男と女が秘密を分かちあうことは、秘密の相姦ではないかと気がついた。

その日、糸を仕入れて外から帰つてくると帳場に男がいて、作業帽を顔にかぶせ、椅子から足をのびし、靴を机の上に投出しながら寝そべっていた。

他人の事務所に勝手にはいり、そんな恰好で振舞うるのは、この田舎町にはいないはずである。

釣鐘は顔を反に向けて帳場を出かけたが、ふと気になつて寝相を確めた。土間に空のトラランクが投出してある。闇屋だった。三宮で生地屋をしていた頃、店に出入りしていた一人だと分つた。名前まで思い出した。危険な相手である。闇屋が捕まると、売元の工場は千円の罰金を覚悟しなければならぬ。もつとも、ガチャンと織機を一度動かしただけで、一マン円儲かるといわれていた時代である。千円はさした金でないかも知れぬ。しかし巻添えをくうのは馬鹿らしいことだった。

ヤミなら、釣鐘は最近もつと大きなことを考えている。車を買つた。四輪車でない。前が一輪だから三輪である。二股のハンドルで、サドルの下にガソリンタンクが、ペダルにエンジンが付いていた。運転台は屋根だけで、サイドはない。上からの雨は防げたが、横からの風は避けられない。ハンドルから前輪の心棒へかけて、セルロイドの風除けが取付けてある。荷台は小型トラックなみだった。その大きな荷台が気に入ったのだった。

電車を運転した経験がある。電車乗りならと、警察の試験官は一も二もなく免許証をくれた。ガソリンの不自

由な時である。

ヤミガソリンが街に出廻っていた。繊維工場では業務用の特配がある。ヤミでなくとも油は手に入った。

共産党の町会議員に部屋を貸してから、ヤミブローカーが工場へ顔を見せなくなっていた。隠匿物資が倉庫から摘発をうけていた。摘発は警察の仕事だが、共産党も手をかしている。西脇には二百五十からの織物工場があり、五千三百人の従業員が働いていた。ヤミで得た工場主の利益は、労働者の賃銀に還元されないもので、共産党はヤミを不正行為と見なしている。釣鐘は自分で、大阪の間屋街へ持っていくことを考えたのだった。車と油は確保できている。後は運搬だ。車一台分のヤミである。途中に警察の検問があった。それを突破しなければならぬ。アメリカ軍のジープが道を監視している。それをまかなければならぬ。下手をすると、車ごと没収の憂き目を見る。

釣鐘はその足で作業場へ出ていった。女従業員が五人いた。その中に多加がいた。織機は一人が一台きりでないから、五人ではもっと何台にもなる。経巻(たてまき)



から繰出される糸の流れが、綜統(そうこう)で上下二列の菱型にひらき、狭間を箴(おさ)が目もとまらぬ速さで往来している。仕上り真近かに織上った布巻が何台もあった。蒸気の白い微粒子が女たちの足もとを這っている。釣鐘も蒸気に足を入れていた。ふと、手をつかまれたと思ったら、薄っぺらいものが握らされていた。チュウインガムだった。誰も気付かぬうちの事である。知っているのは一人だ。多加だ。多加の背後を巡回していた時だったから。その折分ったが、織子はみな口を動かしていた。五人ともである。鮎はこの町でも出まわっていたが、チュウインガムはアメリカ兵しか持っていない。釣鐘も口へ入れたが、どこからこんなものを手に入れたかが気になった。

織場から加工場へまわった。甥の光男が、織布から葉品で汚れをとっている。

「帳場へ来とってのは、どこのおっさんや」

知っていたが、わざとたずねることで、こだわっていることを伝えてから、光男が煙草を吸っているのに気がついた。甥はいったんポケットへ隠したが、しぶしぶ取



出した。

「見せますがな。見せますがな」

釣鐘は受取って手に持った。

「こんなものじゃれへんがな」

「外国煙草ですがな。倉庫を見せてくださいしんでっせ」

釣鐘は煙草を返した。

「見せたのか。あんな担ぎ屋に」

「叔父さんの友達やと言うてはりましたぜ」

「どあほ。煙草一個でか」

帳場へ引返した。担ぎ屋はまだ足を机にのせていた。

甥を呼んで、担ぎ屋を起こさせた。

「起きます。起きます」

と、光男が肩を揺さぶるたびに言った。よく見ると、

担ぎ屋は膝を両手で押さえ、身体をのけぞっている。

「足をどうしたの、松林さん」

「こむら返りです。直ぐ治ります」

甥が手伝って、靴をつかんで机からはがそうとした。

足は棒のように曲らなかつた。

「投出さんと、そっと地べたへ置いてくんははれ」

どしんと、床で音がした。担ぎ屋は悲鳴を上げた。

痛みが遠のくと、昔のへらず口の松林にもどっていた。

椅子をいざって、腹を机に押しつけると、白い前歯をか

み合せながら、照臭そうに笑った。

「こんなこと、しよっちよう起るの松林さん」

「腹のひもじいのを我慢していると、ちょこちょこ、ぶ

り返します。道で動けなくなったりするんです。経験お

まへんか」

松林は外国煙草を取出して机に置いた。

「釣鐘さんの社長はんも板についたものですね。三宮の

高架下時代となら、大変な出世だと思えます。これはお

土産です。神戸の奥さんが肌恋しゅうおまへんか。ひひ

ひ」

釣鐘は神戸から警察に追われて、裸足で逃出す時、この男から靴を借りたことを思い出した。あの時は気が立

っていたので、どんな人間にも泣きつけたのだった。

「なんぞ、ええ話が神戸におまへんか」ときいてみた。

ひひ、と松林は追従笑いをした。「ええ話なら、そちらさんのこととちがいますか」

「変ったことでも」

「変った話なら、沢山おます。奥さんから言伝てを頼まれてきました。釣鐘さんと一緒に暮らしたがつてはります」

「あの靴は大きい履けまへんでした」

と釣鐘は靴の札を言った。松林は、ひひと、前歯で笑った。

「奥さんはあんじよう神戸でやつてはります」

「家内のことはよろしいがな」

「ほかに変った話といば、進駐軍ですな。相変らず横柄で、厚かましゅうおます」

釣鐘も進駐軍には酷い目にあっている。アメリカの洋服生地を扱って、三日間、MPで抑留をくらったのだった。

「ほかに、衣料切符が無くなる話があります。そうなたら、吾々の商売は上ったりですな。釣鐘さん。たださへ肩身のせまい生き方でしたからね。ヤミは。長続きしこないとは思っていましたけれど」

綿花が一度に八本づつ、クレーンでアメリカ船から岸壁へ揚陸されている写真が、連日のように新聞にぎわしていた。衣料は間もなく豊富に出廻ることは、織物の町である土地の人が一番早く感付いていた。

「それは確かですか」

と釣鐘は思わず身体をのり出していた。この町だけでなく、余所の町まで噂が伝わっていることで焦慮を覚えたのだった。西脇は、明治から大正、昭和の初期にかけて何度も織物ブームと不景気を味っている。不景気の折は工場を縮少し、織機の台数を減らして凌いで来たのだった。もうその時代が来つつある。呑気に構えておられない。折角工場を買って、儲ける機会を逸してしまうと気がついた。

